

ITを使って 高齢化社会を楽しく生きぬくコツ

若宮 正子 氏(メロウ倶楽部副会長・NPOブロードバンドスクール協会理事)

日本が戦争の深みにはまっていって時代、1935年の生まれです。最後の疎開児童といわれる世代で、終戦直後も教育の混乱で勉強の機会に恵まれませんでした。

高校を卒業して都市銀行に就職。計算はそろばん、お札は指で数える、通帳の記名も手書きという具合で、不器用な私は仕事が遅くてよく叱られました。

やがて、電気計算機が登場します。歯車がかたかたして計算する機械式でしたが、仕事はそろばんのほうがまだまだ早かった。それでも「あのかたかたに仕事を奪われる」と多くの人が予感しました。

電子計算機、コンピューターなどが導入されて、その予感は現実になります。最新技術は単純作業から人間を解放し、私も職場の叱られる係を卒業できました。ですから、最新技術は私にとって恩人のようなものです。

パソコン(PC)を初めて購入したのは58歳のとき。インターネットが普及する以前は、PC通信が主流で、文字を送受信できるだけでも驚きでした。

早速、PCネットワークのフォーラムに参加。メロウ倶楽部の前身で、ネットワーク上の老人クラブのような集まりです。そこでのやりとりを通して仲間にも叱られ、指導されて、ITリテラシーが身についたと思います。

日本のデジタル化は、世界からの遅れが目立つといわれています。知人に協力してもらい、デジタル国家・エストニアの高齢者に、電子サービスの利用に関するアンケート調査を行いました。

結果は、自力で利用できる人が84%、家族などに支援されてが16%で、予想を上回るものでした。また、デジタル化によって暮らしの幸福度は向上したかを問うと、93%が向上したと答えました。使い方の勉強法で最も多かったのは、自学自習。一度試してみて、きっと好きになる、学びに遅すぎることはない、などの声が日本の高齢者へ向けに寄せられました。

大切なのは「自分の情報は自分のもの。自分で把握して管理していい」ということです。統一された電子サービスの利点と欠点を自分で考えて判断し、自分の情報は必要



なときに有効に使うものと理解すべきです。

人生100年時代を創造的に生きたいと思います。そのために学び、それを仕事に生かす。生涯学習がとても重要です。子どもたちには、学ぶ楽しさや素晴らしさを知ってほしい。一方、大人たちは学びに加え、知識と経験を消化し発酵、熟成させて「英知」をつくらなければなりません。英知こそが、人生100年時代の重要なキーワードになると思います。

若宮 正子 わかみや・まさこ

1935年東京生まれ。2017年にゲームアプリ「hinadan」を公開、一躍有名に。2018年、国連社会開発委員会の依頼で年次セッションで基調講演を行う。現在、NPOブロードバンドスクール協会理事、メロウ倶楽部副会長。政府の「人生100年時代構想会議」有識者議員などを務める。エクセルアートの創始者。